

1. 恐竜化石の発見と経緯

1-1. 恐竜化石の発見

丹波市在住の村上 茂氏と足立 洸氏は、丹波地域の地層を大切な郷土の自然遺産として地域の人たちに紹介することを目的として、かねてより地質調査を行っていました。2006年8月7日に、お2人は丹波市山南町上滝で篠山川の河岸に露出する地層の生痕化石の調査をしていたところ、赤褐色の泥岩層から灰褐色の物体が1cmほど突き出しているのを発見しました。これは形から自然石でないことは明らかで、よく見ると骨の組織らしいものがわずかに見えていたため、重要な化石と考え慎重に掘り出しました。8月9日に発掘を再開しましたが、新鮮な岩は固く人力ではこれ以上掘れなくなったため、掘り出した化石を人と自然の博物館に持ち込みました。これらの化石は三枝研究員によってただちに恐竜化石であることが明らかになりました。このときの標本は肋骨1点、尾椎1点です。三枝研究員はただちに現地に向かい、化石の産出状況を確認しました。



発見時の恐竜化石 写真提供:村上 茂氏

1-2. 試掘

2006年9月27日～29日に、恐竜化石の埋蔵状況を詳しく確認するため博物館を主体として試掘を行いました。電動削岩機を使って赤紫色の泥岩層の部分を横に掘り込んだところ、保存状態の良好な化石が発見され、大規模な発掘を行えばさらに多数の標本が得られるであろうことが確認されました。特に1体分がまとまって埋まっている可能性があり、その場合日本ではトップクラスの恐竜化石になることが予想されます。

試掘までに得られた標本をクリーニングしたところ、大型の植物食恐竜である竜脚類のティタノサウルス類に属する可能性が高いことがわかってきました。

試掘までに産出した化石

- ・竜脚類:肋骨1点、尾椎2点、血道弓3点、椎骨破片3点
- ・獣脚類:歯3点
- ・その他骨片



試掘で化石含有状況を調査



試掘を行う発見者の村上茂氏、足立洸氏



試掘で発見された大型の血道弓



発見時と試掘で採集した化石

1-3. 発掘調査の準備

試掘の成果をふまえて、本格的な発掘調査の準備を始めました。発掘の方法や範囲を検討し、河川管理者に工事許可を申請しました。また今後の対応や活用について協議するために丹波県民局、地元自治体、住民、警察等による協議会の発足準備を進めました。第1回協議会を1月17日に予定し、ここで発掘にかかわる体制や見学者等に対する事故防止、盗難防止などについて検討し、この場で記者発表を行い化石発見に関して公開することとしました。

記者発表

発掘の準備を進めるさなか、2007年元日に神戸新聞で恐竜化石の発見が報じられました。そのため1月3日に博物館で緊急の記者発表を行いました。発見者の村上氏・足立氏をご紹介します、これまでに採集した化石の種類や点数と、化石から明らかになったこととその意義について発表しました。

化石発見現場では、盗掘を防ぐために連日職員が交代で警備を行いました。

臨時展示の開催

2007年1月6日～21日に博物館で臨時展示「丹波の恐竜化石」を行いました。丹波で発見された恐竜化石の実物を見るために、館内には長い行列ができました。



2007年1月3日の記者発表



臨時展示の恐竜化石を見るために行列を作る来館者